

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.57
2014.11

水玉のレインコート？

雨が降っても平気だよ♪



(白色紋が16コ)

amiharinomoroikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomoroikimonotachi amiharinomori

透明感漂う“シロジュウロクホシテントウ”

少しずつ葉が色づき始めてきた10月のある日、鮮やかなベっ甲色に白い点の水玉模様が可愛らしいシロジュウロクホシテントウに出会いました。目を凝らすと、頭から胸にかけて透明なカサを被っているように見えました。テントウムシと聞くと「赤や黒の水玉模様じゃないの？」と思いがちですが、このテントウムシのように白い点が目立つ種類もいて、同じ水玉でも受ける印象が全く異なるのが不思議です。それもそのはず、このテントウムシはツヤツヤした赤と黒の模様の肉食性とは異なり、植物の葉っぱなどに被害をもたらす、うどん粉病などの菌を食べる食菌性ということがわかりました。小さい体ながら、一度目にすると毎日のようにあちこちで会うことができました。去年はほとんど見かけなかったのに、今年は大繁殖したのかな？と推測。もしかするとうどん粉病にかかった植物が多かったのかも…？

What is
“Shirojuurokuhoshitentou” ?

「食菌性のテントウムシ」

テントウムシ科
全長：約5～6mm
分布：本州、九州

テントウムシは大きく分けると肉食、草食、菌類食があり、シロジュウロクホシテントウはうどん粉病などの菌類を食べる“カビクイテントウ族”に属している。白色紋の数で何種類かに分けられる。

amiharinomoroikimonotachi amiharinomori amiharinomoroikimonotachi amiharinomori amiharinomoroikimonotachi amiharinomori amiharinomori



3番付近はブナの純林地帯

二番の標識を過ぎると、この散策路で最も急な丸太の階段が現れます。と言っても、階段脇に露出する溶岩の塊を見ながら少々息を弾ませれば、すぐに三番の標識に到着。この辺りは、ブナの木の純林帯です。

網張の森 セルフガイド



ブナ 網張の森を構成する主要な樹木の一つで標高600mあたりから自生しています。比較的長寿な樹木なのですが、巨木と言われるだけの木はそんなに見あたりません。網張の森はかつて炭焼きが行われており、多くの樹木が伐採され、その後に現在の森が出来上がりました。成長途上の森であり、いずれはブナの木が優先する森になると考えられています。

ブナは材質が建築に向かないことから、木偏に無と書かれた「櫛」という名も付けられました。しかし近年では材そのものよりも、森の中におけるブナの木の存在が脚光を浴びるようになりました。



萌え上がり森を包み込むブナの新緑



多彩なブナの林の秋

硬くて腐り難い葉を地面に大量に重ね、「緑のダム」と言われる豊かな森林土壌を形成するための大きな役割を担っていたのです。

森林土壌 ブナの森には他にミズナラやダケカンバ、カエデ類など多くの樹木が同居しています。硬いブナの葉と柔らかく腐りやすい葉が混ざり合い、それらを食べ分解してくれる昆虫や土壌生物、キノコなどの働きによってミネラルと空気のたくさん入った土を作り出し、大量の水を貯え、多くの生命を育みます。

蜂の巣・リスの巣・野鳥の巣

ネイチャーコレクション

展示コーナー紹介 その⑨

南側に面した大きな出窓に展示しています。鳥の巣は以前、森の中に巣箱を掛けて生態調査をした時の物や来館者からの提供。蜂の巣はスズメバチの巣の中の様子が一目で分かるように切り開かれています。リスの巣は盛岡市内の杉山で見つかった物ですが、網張の杉林にも同様の物があると思われます。



身近な鳥の巣



キイロスズメバチの巣



ニホンリスの巣

お願い 展示コーナーでは手で触れて実感して頂いていきますので痛みが激しい物もあります。お持ちの何かありましたらご提供ください。

佐和子先生の森と友達

松木 佐和子

11月に入り、街中の紅葉もピークを過ぎようとしている。今年の紅葉は例年になく朱色のハウチワカエデも、黄色のイチョウも目が覚めるように鮮やかに染め上がったように思う。この季節、里山を歩いていると、こんなにもたくさんの種類の広葉樹があったのか、と目を見張る。樹種によって、また置かれた環境によって広葉樹の葉は様々に色を変える。更に、全体が一色に染まるものもあれば、黄緑からオレンジまでのグラデーションになるものもある。葉齢（葉が開いてからの期間）や光環境、水分条件など、樹木が過ごして来た履歴が葉の色づきに映し出されると言ってもいいかもしれない。



岩手は広葉樹が多い県として知られる。針葉樹の人工林面積よりも広葉樹の天然林面積（その多くは二次林）が広いというのもそうだが、広葉樹の素材生産量が北海道に次いで日本で二番目に多いのが特徴だ（H24年の生産量は32万m³）。木炭の生産量は現在でも日本一である。去る10月25日、日本森林学会の公開シンポジウム「里山広葉樹林の保全と活用—東北の可能性—」が岩手大学で開催された。

そこでは、コナラやミズナラなどナラ類の優占度が高い里山の広葉樹林は、現在高齢化の一途をたどっており、これがナラ枯れなどの虫害や気象害を誘発しているというリスクについて述べられていた。里山の広葉樹林は、その若返りを図るためにも、伐って、使って、萌芽更新や実生更新で再生する循環利用が森の健全性を維持する上で大事なのだ。そういった意味では、広葉樹生産量の多い岩手の広葉樹林は、他県と比べれば健全性を維持している方なのかもしれない。それでも、パルプや木質バイオマスとして利用される広葉樹チップは、

海外からの安い輸入品に押され年々生産量が減少して来ている。量と値段で敵わないのであれば、やはり質で対抗するしかない。広葉樹には様々な種類があり、樹種ごとに様々な特徴、用途がある。それを見極め、利用して行くことが、日本の広葉樹林を救う唯一の道なのかもしれないと思った。



*筆者の佐和子先生は岩手大学農学部で学生たちに森林生態学を教えています。山スキーと歌をこよなく愛する彼女が森に関するエッセイを綴ります。

おかげさまで今年度、満10年目を迎えました。 網張ビジターセンター開設ものがたり

第四話 ・ ・ 地域参加のビジターセンターへ ・ ・ 千村 勝哉（元網張ビジターセンター主任解説員）

国立公園岩手山において知的な利用を楽しんでいただくために最新鋭の知見、技術を駆使して優れた施設として立派に建造された網張ビジターセンターですが、維持、管理だけでなく、「運営」という“魂”が入らなければ本来の目的を果たすことができません。開閉、窓口対応、清掃、除雪、補修、修繕等といった維持、管理次元にとどまるのではなく有機的に機能する運営次元まで取り込まなければ“宝の持ち腐れ”になってしまいます。残念なことに国が整備した公共施設は維持管理のための必要最小限の手当ては講じられますが運営次元までは行届きません。維持、管理にとどまる単館としての存在だけでは様々な面で限界にさらされ幅の広い活動はできません。こうしたことから当館でも地元関係団体との連携が取入れられることになりました。

当館の場合は、岩手県自然保護課をはじめ、雫石町や滝沢村（現・滝沢市、以下同）、休暇村岩手網張温泉、盛岡森林管理署、両町村観光協会、岩手山南麓エリア協議会、小岩井農牧株式会社（小岩井農場まきば園）、八幡平国立公園協会の当館運営に賛同して下さる団体と連携させていただくことになり、県自然保護課に顧問をお願いし、整備側の環境省東北地方環境事務所と上記関係団体から構成された運営協議会が平成16年5月に立ち上げられました。

その中で、雫石町、滝沢村、休暇村岩手網張温泉には地元受益側として運営経費のご負担をお願いさせていただきました。三者各位におかれては国立公園のビジターセンターについては初めて対処されるものであっただけに、経費の負担ともなれば戸惑いもあり、一筋縄ではいかない内部での議論も相当あったかと思われそうですが、国立公園岩手山に寄せる篤い志しのもとにご協力下さることになりそのご英断には今も深く感謝の念に尽きることがありません。このような連携によって運営体制が整えられ、運営予算や人、方策、各種アドバイスや情報、支援等を得ることができ、運営の“魂”を吹き込むことができました。お陰様でビジターセンターとして本格的な形でスタートさせることができ、懇切丁寧な細かい相談にも乗る窓口対応、岩手山や周辺主要利用地等における各種自然ふれあい活動、岩手山の最新知見や自然保護思想普及のための各種講座や岩手山の文芸発信を紹介する企画展示、インターネット、ニュースレター等を介した自然情報の収集、発信、あるいは、普及版ガイドマップやブックの発行、さらには、活動に必要なマニュアルの資料作成などといった幅広い活動を円滑に展開させていただくことができました。その中で次々と新たな出会いやステップが積み重ねられ、類似施設や学識者、ボランティア、山岳関係者、各種展示物、書籍、資料類提供者、友の会、マスコミ社等との人脈形成や協働関係も広げることができました。

連携や協働はその構成員が既に長年かけて蓄積してこられたものを含む能力間の互恵関係ですから、これはつまり省エネに沿う形での最大効果を上げ得ることが期待される極めて効率的な機能向上スタイルともいえます。この意味で運営協議会を核とした地域関係者参加型の実効性には絶大なものがあり具体的な実績を重ねる方向への要因となりました。実にさまざまな温かいご支援のもとでスタートできましたが、関係の方々の気持ちが不思議なほど一つにまとまっていたように感じました。それはやはり郷土の誇り、国立公園岩手山が放つ“光”への収斂によるものではないかと思われました。

自然観察会 報告

9月27日

秋の網張星空観察会

◆参加者33名
行事直前になって晴れていた網張の空が雲に覆われ、急遽スライドショーとミニプラネタリウムに予定変更。
応援の子ども科学館さん、小岩井まきは園さん、本場に助かりました。



10月12日

文学散歩「賢治が愛した七ツ森の魅力」

◆参加者26名
岩手県内のみならず、仙台、横浜、青森などから賢治ファンが集合。
紅葉盛りの七ツ森を散策しながら、閑歌一講師の興味深い説明に耳を傾けました。



10月26日

紅葉の鞍掛山・スケッチしながら自然観察

◆参加者20名
講師の広野孝男さんの「ヘタな絵ほど味がある」の言葉がほまれ、晩秋の鞍掛山周辺のスケッチを楽しみました。作品は網張ビジターセンターに展示しています。



11月2日

親子で楽しむクラフト教室

◆参加者15名
何故子どもよりも親が夢中になるのかの行事です。自然素材の魅力をあらためて実感しました。



11月16日

栗石の民藝クラフト教室 布ぞうり作り

◆参加者20名
栗石民藝社主宰の階美榮子講師によるていねいな指導は女性に大人気。
少数参加の男性陣も負けじと、美しい布ぞうりを編み上げていました。

★ 環境省盛岡自然保護官事務所からのお知らせ ★ 先頃の御嶽山噴火により犠牲者が出たことを受け、各地で改めて色々な方策が検討され始めています。十和田八幡平国立公園内にある岩手山等も活火山であり、いつ活動が活発化するか誰にも分かりません。山を楽しんでいただきたいのはもちろんですが、活動の活発化に備えた個人の準備も必要だということを皆さんお忘れなく。

*インフォメーションコーナー 詳しいお問い合わせは網張ビジターセンターまで

「冬の網張の森を歩く」

12月20日(土)

葉っぱの落ちた明るい森の中の新雪を踏みしめ歩きます。冬越しの「生き物」観察。
網張ビジターセンター集合 9:30~12:30
定員 20名
参加費 大人500円 小学生300円

「網張雪上ハイキング」 (スノシューハイキング)

冬の運動不足解消！歩いた後は暖かい温泉が待っています！

1月5日(月)~
毎週、土・日・月

網張ビジターセンター集合 10:00~
定員 10名 (1時間程度)
参加費 小学生以上300円

「鞍掛山麓アニマル



トラッキング」

1月25日(日)

相の沢駐車場集合 9:30~14:30
定員 20名
参加費 大人 500円 小学生 300円

● 現在開催中の網張ビジターセンター企画展 ● 10月1日から12月28日までビジターセンター展示コーナーにて

・・・あなたは・・・
岩手らしい風景を意識したことがありますか？

第I部 (11月の展示)

「山のあなたの空とおく」

第II部 (12月の展示)

「潮の遠鳴り数へては」

「多賀谷 真吾 写真展」



岩手の風景が、私の心をとらえます。風景に向き合っているうちに、今度は、私の心がその風景をとらえたいくなります。
・・・出展者の言葉より・・・

モモンガのつぶやき

冬が半年、春~秋が半年の網張では、里の方に比べると動植物の活動期間がグッと狭まり濃厚なのかもしれません。あんなに賑やかだった野鳥のさえずり、昆虫の声、目を楽しませてくれた花たちの気配は薄れ、森の中では凜と佇む樹木が存在感を増しています。

「動」から「静」への移り変わりを感じる度に「時にはゆっくり日々を振り返ってみたら？」と自然が教えてくれているように思う今日この頃です。(佳)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 9月 2,719人 ◆ 10月 2,566人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 9月 12.2℃ ◆ 10月 7.0℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡栗石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://www17.ocn.ne.jp/~amihari/>

E-mail: amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期(11月から3月末まで) 毎週火曜日休館 9時~17時
年末年始休館(12月29日~1月3日)